



消防出初め式で、花火の合図とともに開始された佐世保川への一斉放水

九じろうの取材日記

長崎と世界の名品移動展

島瀬美術センターでは、開館20周年を記念して「長崎と世界の名品移動展」を昨年12月11日、26日に開催しました。県が所蔵している世界的に有名なピカソ、シャガールや、県内にゆかりのある画家などの作品計62点を展示しました。

「子どもに分かりやすく作品解説」「子どもギャラリートーク」

会期中の12月14日、県学芸文化課の永島絹代さんによる作品解説会が開かれ、長崎にゆかりのある北村西望や、佐世保出身の市山時一郎などの作品が解説されました。参加者は、子どもだけでなく大人も含め十数人が集まり、永島さんの楽しく分かりやすい解説に熱

心に耳を傾けていました。



北村西望「母子像」の解説を聞く参加者



市山時一郎「機関庫(早岐)」を解説する永島さん



「美術館で作品を見ると、作品は少ししか見ないので作品のそばにある解説文を読んで、鑑賞した気分になって満足して帰る人もいますが、作品をじっくり見て、自分が感じたことを大切にしてください」と永島さん。

「美術館で作品を見ると、作品は少ししか見ないので作品のそばにある解説文を読んで、鑑賞した気分になって満足して帰る人もいますが、作品をじっくり見て、自分が感じたことを大切にしてください」と永島さん。

参加した中学生は「普段はあまり見ることのできない絵を鑑賞できて、きょうはよかったです」と話しました。

布バッグに版画で動物や植物などの絵を描きました

同じ14日に開催された移動美術館「布版画でバッグを作る」では、小・中学生や親子連れが参加し、版画に挑戦しました。



この日は、版に穴をあけてそこからインクを染み出させる「孔版」という技法を使い、白い布の手提げバッグに模様を付けました。子どもたちは、動物や植物などの模様があらかじめ繰り抜かれて



いるプラスチックの版の中から気に入ったものを選び(写真上)、バッグの描きたい場所に、版をテープで固定し、ステンシルカラー」という特殊な絵の具を使って色を塗りました。最初は、やり方に手間取っていた子どもたちも、すぐに要領を得

て夢中になって描いていました。



白い布の手提げバッグに夢中になって色を塗る子どもたち

広田小学校5年生の信永菜月さんは、「とても楽しかったです。絵の出来には、満足しています」と話してくれました。



作品を披露する信永さん

編集長から「一言」

相浦川の特集を組むため、珍しく早々と昨年夏から取材開始。いつもは特集の中から表紙写真を選ぶのですが、半そで姿が多くて2月号にはふさわしくないと、消防出初め式となりました。原稿の方はいつものように締め切り間際に滑りこみで、また反省。(一)



PUBLIC RELATIONS SASEBO

広報 No.639

させぼ



広報させぼ 編集長「キューちゃん」

特集 相浦川の自然と環境 2~5p

今月の主な内容

| | |
|-----------------------|--------|
| 小・中学校の2学期制、市県民税申告相談など | 6~9p |
| 市民の広場 | 10~11p |
| 施設だより、イベント | 12~13p |
| 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド | 22~23p |
| 九じろうの取材日記 | 24p |

2月 2004 February

広報 させぼ